**２０２３年７月30日(土)　ヴェルウィン（あさま）会場**

 仲　寒蟬

 木下闇真昼の端の見えてをり 藺草慶子

 出張の刑事手で割る真桑瓜 藤原くに子

〇 鳴き出しは火打石めく油蝉 家登みろく

 瓜揉むや禅智内供のそれの如 一澤千鶴子

 夏草に山羊の乳房の仄紅し 島田洋子

 小林貴子

 風穴の壁ななふしの張りつきぬ 坂東文子

〇 鳴き出しは火打石めく油蝉 家登みろく

 虚子庵に門二つある涼しさよ 山本よしえ

 百日紅真昼の景を裏返す 仲　寒蟬

 老鶯の流暢にして本井英 家登みろく

 藺草慶子

 風穴の壁ななふしの張りつきぬ 坂東文子

〇 先生やくるりと丸め夏帽子 一澤千鶴子

 鳴き出しは火打石めく油蝉 家登みろく

 朝の日のまぶしくなりぬ夏の露 坂東文子

 瓜畑小諸に地名乙女あり 小林貴子

 塩川　正

 瓜畑小諸に地名乙女あり 小林貴子

 ただ蝉の世や本丸も二の丸も 木代爽丘

 一面の青田に日矢のさしてをり 鈴木栖子

 浅間山雲崩れけりかき氷 大関博美

 店構へ低く夏日の坂の町 渡邉美保

 島田洋子

 幾年を夕日見送る藪甘草 大関博美

 ただ蝉の世や本丸も二の丸も 木代爽丘

〇 鳴き出しは火打石めく油蝉 家登みろく

 恐ろしき程に氷室の冷気かな 清水ゆき子

 氷風穴出づれば眼鏡曇りけり 小山久米子

 清水ゆき子

 片蔭の途切れてあそこまで飛ぶか 仲　寒蟬

〇 炎天の白線跨ぎ美術館 一澤千鶴子

 缶ビール冷やす水槽瓜浮かべ 島田洋子

 葉にのりて高原の蝿吹かれをり 鈴木光影

 天守台まで炎天を這いあがる 山本よしえ

 鈴木光影

 小諸城址夏雲すこし硬さうな 家登みろく

片蔭の途切れてあそこまで飛ぶか 仲　寒蟬

〇 百日紅真昼の景を裏返す 仲　寒蟬

 空堀に渡す木橋や蟬しぐれ 渡邉美保

 夏蝶や門扉傾く家より来 一澤千鶴子

 鈴木栖子

 鳴き出しは火打石めく油蝉 家登みろく

 虚子庵に門二つある涼しさよ 山本よしえ

 空堀に渡す木橋や蟬しぐれ 渡邉美保

〇 夏草に山羊の乳房の仄紅し 島田洋子

 荒々し小諸の蝶と出合ひけり 清水ゆき子

 坂東文子

 瓜畑小諸に地名乙女あり 小林貴子

 小諸城址夏雲すこし硬さうな 家登みろく

〇 木下闇真昼の端の見えてをり 藺草慶子

 片蔭の途切れてあそこまで飛ぶか 仲　寒蟬

 店(たな)構へ低く夏日の坂の町 渡邉美保

 大関博美

 ただ蝉の世や本丸も二の丸も 木代爽丘

 高原を二つに割りて蟬の声 鈴木光影

 踏みゆけば数多の蜻蛉立ち退けり 北原みゆき

 姥百合やここを下れば風穴群 藺草慶子

〇 泉湧くところ今なほ虚子の声 井上　基

 小山久米子

 風穴を山ふところに蟬時雨 坂東文子

 ただ蝉の世や本丸も二の丸も 木代爽丘

 片蔭の途切れてあそこまで飛ぶか 仲　寒蟬

〇 炎天の白線跨ぎ美術館 一澤千鶴子

 浅間山雲崩れけりかき氷 大関博美

 北原みゆき

 鳴き出しは火打石めく油蝉 家登みろく

〇 葛茂る城址貫く高速道 木代爽丘

 葉にのりて高原の蝿吹かれをり 鈴木光影

 火照る身を冷気の捉ふ氷室かな 島田洋子

 萍の動かぬ村の真昼かな 藺草慶子

 藤原くに子

〇 夏蝶や門扉傾く家より来 一澤千鶴子

 夏草に山羊の乳房の仄紅し 島田洋子

 ただ蝉の世や本丸も二の丸も 木代爽丘

 木下闇真昼の端の見えてをり 藺草慶子

 虚子庵に門二つある涼しさよ 山本よしえ

 山本よしえ

 店（たな）構へ低く夏日の坂の町 渡邉美保

 炎帝に頭を垂れて坂の町 北原みゆき

 幾年を夕日見送る藪甘草 大関博美

〇 木下闇真昼の端の見えてをり 藺草慶子

 七節や己の長さ持て余し 北原みゆき

 渡邉美保

 荒々し小諸の蝶と出会ひけり 清水ゆき子

 鳴き出しは火打石めく油蝉 家登みろく

 七節や己の長さ持て余し 北原みゆき

〇 葉にのりて高原の蝿吹かれをり 鈴木光影

 老鶯の流暢にして本井英 家登みろく

 一澤千鶴子

〇 藤村のこの簡素なる夏の空 鈴木光影

 五の郭より炎天の城址かな 渡邉美保

 片蔭の途切れてあそこまで飛ぶか 仲　寒蟬

 風穴の隅に蛙の青と茶と 小山久米子

 まな板に転がりさうな黄なる瓜 山本よしえ

 井上　基

夏薊はだかる先の遠浅間 木代爽丘

 ヤッホーの木霊や秋の麒麟草 塩川　正

 太陽と雨とラジオや瓜畑 小林貴子

 記念樹やいつか大きな木下闇 大関博美

〇 七月の風湧き上がる古址に立つ 木代爽丘

 木代爽丘

 小諸城址夏雲少し硬さうな 家登みろく

 姥百合の背筋がしやんと伸びている 清水ゆき子

 くやしいがパナマ帽よく似合ふ人 井上　基

 放牧の牛がそつぽの鬼躑躅 塩川　正

〇 藤村のこの簡素なる夏の空 鈴木光影

 家登みろく

 夏薊はだかる先の遠浅間 木代爽丘

 興亡の丘をさまよふ夏の蝶 井上　基

 風穴や夏の落葉を吹き上ぐる 島田洋子

〇 瓜揉むや禅智内供のそれの如 一澤千鶴子

 小心を夏高原に連れてくる 鈴木光影